

2018年度（平成30年度）
第1回 福山市環境審議会 議事概要

1 日時等

日 時 : 2018年（平成30年）5月30日（水）14:00～15:30
場 所 : 福山市役所本庁舎6階 60会議室

2 出席委員

西嶋渉 会長，堤行彦 副会長，青山進 委員，赤木秀次 委員，川上富美子 委員，
園尾俊昭 委員，土屋博志 委員，寺澤恵美 委員，原田浩幸 委員，平田教至 委員，
村井明美 委員

3 議 事

- (1) 「（仮称）福山市次期ごみ処理施設整備事業に係る環境影響評価」について
- (2) 「第二次福山市環境基本計画」の策定について
- (3) その他

4 議事要旨

- 事務局より，委員定数の半数以上が出席していることが確認された。
- 事務局より，会議は公開で行われることが報告された。
- 事務局より，「（仮称）福山市次期ごみ処理施設整備事業に係る環境影響評価」について，説明された後，これらについて審議が行われた。
- 事務局より，「第二次福山市環境基本計画」の市がめざす環境像について，説明された後，了承を得た。

（意見の概要）

次期ごみ処理施設整備の概要について

（施設概要）

- 新しいごみ処理施設は何年稼働するのか。
⇒基本20年を予定している。状況によっては，それ以上使えることを想定していきたい。

- 処理規模について，今何トン処理を行っていて，600トンというのはどうやって算出したのか。
⇒現在のごみ処理実績をもとに，今後の人口減少やごみの減量化などの取組を踏まえ，施設が稼働する2024年度（平成36年度）時点における計画ごみ量を年間14

万4千トンと推計した。これをもとに、施設規模は燃やせる粗大ごみの量も含めて日量600トンと設定した。

(その他)

○第五次環境基本計画では、CO₂の削減や廃棄物の減量について、積極的に書かれている。地球温暖化対策として、CO₂の排出抑制対策について、最新の知見を生かすという方向性が担保されているのか。

⇒次期ごみ処理施設整備事業は、広域化を想定している。広域化は、一施設に集約することで、高効率で安定したごみ処理を行うことをめざしており、CO₂削減対策にもなると思っている。最新の知見については、技術的になかなか確立されていない部分もあるため、今後の検討課題である。

○CO₂削減は難しい話だが、燃やす量を減らせればCO₂発生が減らせる。これは環境基本計画の中で盛り込んでいく話かと思う。

○燃やすものを減らしていくことが重要である。

○脱水し渣や脱水汚泥が燃やされるようになっていることや、処理対象物として剪定枝等、燃やさなくても済むものが含まれているため、もっと努力していく必要がある。

○脱水し渣や脱水汚泥は、燃やせるような施設を造るということ。

⇒減量化やリサイクルを推進した上で、次期ごみ処理施設を造るということを基本方針としている。

次期ごみ処理施設整備に係る環境影響評価について

(環境影響評価項目)

○大気や水、有害物質の数値が環境基準を超えているものや超えそうなものは積極的に調査項目に入れてもらいたい。

○水質と動植物への影響は、技術指針で参考項目になっているにも関わらず外されているので、再度妥当であるか検討してほしい。

⇒箕沖工業団地は公共下水道の整備区域であり、生活排水も含めて全て公共下水道に接続するため、項目から除外した。

また、計画地は埋立地であり、工業専用地域であるため、動植物が生息するような環境でないことから除外した。

○他の自治体で、同規模のごみ処理施設に関して、今までアセスを行い、フォローアップを行う中で改善点や問題点があれば参考にしてほしい。

○リサイクル発電施設（建設時の環境影響評価）の状況はどうか。一番近くて参考になると思う。

⇒リサイクル発電施設については、事後調査が行われているが、問題は発生していない。類似の事例を参考にしていく。

○工事中の排水については、埋立地なので地下水が濁水として出てくる可能性が高いのではないかと。

⇒基礎を埋めるため、ある程度の掘削は行うが、高潮や大規模災害時に伴う津波を想定して、グラウンドレベルより高い位置に整備したいと考えているため、できるだけ掘削をしない方向で検討している。

(環境影響を受ける範囲と認められる地域)

○環境影響を受ける範囲と認められる地域が円で示されている。風向とその風向の影響を受けたばいじん等の着地点という考え方が、この影響範囲にはないと思う。地理的条件を考慮する必要があるのではないかと。

⇒広範囲に影響するのは大気汚染物質と考えられる。国の技術指針に基づいて距離を計算し、更に余裕をみて半径 2.5km と設定した。どのような風向であってもこの範囲には影響するだろうという考え方である。また降下ばいじんについては、昨年度から調査地点を 2 か所追加しており、計 4 箇所できめ細かい評価を行う。

(地元への説明)

○箕島学区の住民に対して方法書の説明会をしたと思うが、どのような意見があったのか。

○近隣の企業には説明に行くのか。

⇒4月21日に方法書の説明会を昼と夜の2回実施した。新しいごみ処理施設が稼働し始めて今より環境が悪くならないのか、どういった処理形式になるのか、どれくらいの車両台数が来るのかという質問が出た。

隣接する箕沖工業団地協議会には適宜情報提供を行っている。

第二次福山市環境基本計画について

○少し長くなっているが、委員の意見が反映された案になったと思う。

○国の第五次環境基本計画との整合性や見直しはどのようにするのか。

⇒第五次環境基本計画の内容の精査を行い、素案の中へ反映できるものについては反映していきたいと考えている。

以 上